

# FADO

# 7

Julho 1995

月田秀子ファド倶楽部

## TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

①

### 月田秀子の昨日、今日、明日…

2年ぶりのリスボンに活気に満ちていた。4月にしては雨が少なく、日中の30度を越す異常な暑さの中、やはり私は歩いた。長い年月に角が取れ、大きなうねりを見せている石畳の道を。1998年のリスボン万博を控えて工事中の建物が多かった。7年前の大火災で廃墟と化したシアード地区も急ピッチで再興されつつあり、人々の足取りも心なしか忙しげだった。

パイロアルトでファドを聴いた帰り、細い路地にうずたかく積みあげられている煉瓦色の屋根瓦に、同行のY氏が目をつけた。さすが建築家である。

「一枚欲しいな。」うらめしそうに立ち止まる彼の顔は真面目そのものである。明かりの漏れている向かいのバーで飲んでいる若者たちにもその彼の溜め息が聞こえたのか、その建物の所有者と思しき人を呼びだしてくれた。「一枚分けてもらえないか」と言うと、機嫌よくこんなものもあるよと上りやすいように足のかかりのついた瓦をよりだし始めた。バーの窓にたくさんの若者達の顔が並んだ。そんな瓦を珍しがっている私たちが珍しいのだろう。分けてくれそうだ、すかさず一枚選び出し「ありがとう」というとどの顔も屈託のない笑顔で口々に「さよなら、おやすみ」と送り出してくれた。ずしりと重いその瓦を抱えて歩いていると、ひとりの中年の男に出くわした。一杯機嫌の笑みをたたえて、「これはなんというか知っているか。」と言いながら、瓦に「TELHA」と書いてくれた。帰って辞書を引いたところ、その単語は「瓦」という以外に「気の変である事」とも訳すらしい。「COMPANIA DA FABRICA CERAMICA LUZITANIA-LISBOA-(ルジタニア製陶社)」と刻まれたその瓦は、そんな夜の思い出と一緒にピアノの前にある。パイロアルトに若者が溢れ、ファドの匂いのしなくなったことを嘆いていた私が、時のうつろいを素直に受け止めるきっかけになった一夜の出来事である。

最近、ライブに若者の姿が目立つようになってきた。彼等には、初めて聴くファドがどう響いているのだろう。目を真っ赤に泣きはらして帰る女の子、目をパチクリしながら「すげー」を連発する男の子、反応がストレートに伝わってくる。皆真剣な面持ちで聞き入ってくれる。

南森町の天神さんの南門を西に行ったところに行きつけの「ハチ」と言うカレー屋がある。入退院を繰り返しながら、ひとりひたすらからいカレーを作り続けている。「うちのカレーはね、一度食べたなら、二度と来ないか、病みつきになるかのどっちかなのね。あなたの歌と同じ。」カレーを食べながら、私の歌っている歌がどういう質なのかとくと合点がいった。ともかく、だれしものが汗だくで、食べ終わると恍惚状態になるほど、辛いのである。しかもルーは食べ放題、涙が出るほど嬉しい店である。一度ご賞味のほど。

7月、4月に注文してきたポルトガルギターを受け取りに、再びポルトガルへ行きます。「誰が弾くの？」ドキッとするとほど鋭い質問だ。楽器があればきっと弾く人がみつかる。ひたすらそう信じている。いかなかったら、私が弾いてやる。いやいやそんなに簡単にもののできる代物ではありません。ギタリスト共々、日本へ連れてきてしまうほどの、色香も金もなし。佐野さん、忠さん、今後もよろしく頼みます。

### 住所変更のお知らせ

月田秀子ファド倶楽部及び、月田秀子の住所が変わりました。これを機に心機一転、魅力ある倶楽部としての活動を展開したく思っています。

住所 〒543 大阪市天王寺区小宮町1-22.5-西F  
TEL&FAX 06-779-4597

月田秀子の  
ポルトガル紀行②—ミーニョ編—  
〈1988年夏〉

6月10、11、12日と、ポルトガル第二の都市、ポルトワインで知られるポルト、スペインのヴィゴ、「ヴィアナへ行こう」で歌われたヴィアナ・デ・カステロのあるミーニョ地方を旅した。一年間ポルトガルに滞在しながら北ポルトガルへ足を運んだのは初めての事だった。日本への帰国を間近に控えて、やっと腰が上がったという具合だった。

ミーニョ地方は噂に違わず、緑の多い、心までしっとり落ち着くところだ。畑を囲むように、ぶどう棚は青々とした蔓を延ばし、その下には、たくましくすくっと育ったとうもろこし、白い花をつけたじゃがいも、家々の庭には、つるバラがピンク色の花をつけ、それらは、まさしくミーニョ地方の女性のショールの絵柄の世界だ。鋳をふるい、畑を耕す人々、黙々と土に生きている農民達の姿を、私はポルトガルで初めて目にした。どこの国にも田舎はあり、都会のげげげしさ、喧騒とは対称的に、土にまみれ、額に汗しながら農民達が、都会に住むものの食を養っているのだ。そして、私は通りすがりの旅行者であって、そのどちらでもない。彼等に声をかけ、抱擁したい思いと裏腹に、風のように通り過ぎる自分の存在の軽さを少なからず寂しく思った。赤いバラの花々と共に遠ざかって行く彼等の姿を、快適な窓の開かぬバスの窓から、後ろ髪を引かれる思いで見やる。

バルセロスでの一夜は、祭りに出くわす。駅前の広場のステージでは、ボリュームを一杯に上げた音楽が鳴っていたが、私たち—運転手のカボットと、ガイドのマヌエラ嬢—がついた頃、雨が激しくなり、

皆でんでに家々の軒下に避難しているところだった。にも関わらず私の目は、並んだ古い大きなワイン樽に吸い付けられ、まずは、当地の地酒、ヴィーニョヴェルデ（緑のワイン）で乾杯。「リスボンでは、ワインも鯛も、ありつくには銭が必要だが、ここではそんなもん必要なし、素晴らしい事だと思わないかい。」とカボット。

夕べのリスボンのアルファマのサントアントニオ祭りを思い出した。それも昔はきっと地の祭り、身内同志で、鯛を焼き、ワインを飲み、歌い騒ぐものだったのだろう。観光客が増えるに従って、祭りも形態を変える事を余儀なくされてきたのだろう。祭りは、そこに生きる人々の共感の場であるべきで、物見遊山の観光客の為ではない、そして、私はと言えば、そんな彼等と触れ合いたい旅人の一人であって、観光客とは一線を画すると思っただけなのだ。

雨は降り止まず、それでも駅の構内や、家々の軒下の人々は帰りそうにない。雨入りのワインを4、5杯飲んで、ありついた鯛を一匹かぶりついて、私たちも軒下で粘ったが、運転手のカボットの明日の仕事を考えて、ホテルに戻ることにした。

ホテルに戻り、ベッドにもぐりこむと、遠くで音楽が鳴り始めた。「雨がやんだのかしらん。」と眠っているうちに眠ってしまった。

運転手のカボットとは旅の間、よく話が弾んだ。プロのファディスタの歌より、アマチュアのファドが好きだと言う。私も同感だ。リスボンに戻ったとき、追いかけてきて、彼のお気に入りのファドのテープをプレゼントしてくれた。アマチュアのファドを聴きに行くことを約束して別れた。その後、そのテープをダビングして返そうとバス会社を訪ねたが、彼はすでにその会社にいなかった。彼も、旅人の一人なんだなと思った。

〈みちのく便り〉

昨12月のコンサート、そしてNHK TVご出演と、ファドの道まっしぐらの月田さん、いかがおすごしでしょうか。

先日、ホットなうれしい日がありましたので、ペンを取ります。私共のギャラリーで、みちのく玩具展を開催しております、お若いカップルがぶらりと寄ってくれました。

玩具と言えば、独楽やけん玉、こけしやししかけのある木のおもちゃ等で、今は子供も大人も遊び忘れ、使い忘れたモノたちです。そのカップルは一つ一つ手に取り、しばらくの間、童心にかえってなつかしように遊んでおりました。聞けば、学生時代の同級生とか。お茶を飲みながら、お話が続きました。カップルの男性は、大学を卒業し、何かクリエイティブな仕事をしたいのだが、現在模索中との事。学生時代、休みを利用しヨーロッパに出かけたそうで、さまざまな国を歩いた旅の中でポルトガルが最高だ

ったそうです。

若者をも魅了するポルトガル…。

私はうれしくなって、つかさず月田さんとファドの話をしました。丁度翌日、月田さんのNHK人間マップが再放映される日でしたので。お二人は目を輝かせ、メモをし、仲良く立ち去りました。

名前も知らず語り合った2時間でしたが、玩具の木のおもちゃが縁で、私たちは心はポルトガル、そしてファドだったのです。

月田さんの唄には、干し草に包まれたようなぬくもりがあります。黒田清氏が“おかみさんのような生活感のある声…”と評していましたが。

先を急ぎ、進み過ぎてしまった私たちの日本。何にぬくもりや喜びを感じたらよいのでしょうか。

月田さんのファドは、私たちにとって大切なぬくもり。みちのくにいても、貴女の歌声にどっぷりと浸かっています。

佐藤 操（福島県郡山市）

読切連載  
秀子のエピソード帖

[その5]

## 月田秀子の知名度

内間 天馬

最近ではNHKの人気番組に出演したりして、かなりマスコミに登場するようになった月田さんですが、先日、とある居酒屋、筆者の背後の中年男女、どうやら教師らしい。「ほんまに感動したわ、私。シャンソンの〇×〇×よりよっぽどエエわよ。ファド聴いたのも初めてやけど、あんな歌手がいたやなんて」「ファドでなんや?」「ポルトガルの演歌よ、ネ、ネ、マスターもそこのおニイさん(筆者のこと)もいっぺん聴いてみてよ」。思わず「彼女のこと知ってますねっ!」と叫びたいところをグッと我慢して「その月田秀子とやら、美人でっか?」「うん、顔はバタくさいけど、けっこうエキゾチックでセクシーやわ」。思わず「彼女いつもノーブラですねん」とバラしたいのをグッと我慢して「何歳ぐらいでっか?」「そやね、30すぎぐらいかな」。クックッ、思わず笑いをこらえる筆者に、そのおばちゃん「ニ

イさん何がおかしいの?」。 「いや別に…」月田さんの名も…知る人ぞ知る…の段階じゃないんだな…と、感慨を新たにした筆者ではありました。

さて、彼女のこと知ってますねん、と上書きしましたが、実はそんな事はないのです。そもそもこのコラム、編集人の「真面目な記事ばかりでは面白くないから何かジョークのコラムがほしい。ついては君に書いてもらいたい」と、どういう訳か筆者に白羽の矢が当たった次第。折を見てそれとなく月田さんにインタビューし、あることないこと冗談の中に、彼女の人となりや好みなどが自然にわかるように工夫はしてあります。しかし、基本的には冗談です。すべて信用するのは問題です。オチがありますので最後までよく読んでください。過日彼女から電話があり、「あんな事(前号のコラム参照)書くから私が紅白に出演するって本気で信じてる人がいるのよ、どうしてくれる」。で、思わず「エッ、出ないの?!



### <80年夏>

アンダルーシアの焼き尽くす様な太陽に打たれながら愛用の自転車で、取り立てて目的地も無く、唯国境の山並み迄行くと気候が変わるという発想に取り憑かれたまま西に向かった。

遮るものはオリーブ林ばかりで、その葉影に身を縮めてみたところで葉と葉の間から情け容赦の無い光が差し込んで来る。疲れた体でようやくたどり着いた街のバルに行けば、そこには人見知り知らない好奇心に満ちた人々の眼が注がれる。

「名前は?」「自転車で仕事をしているの?」「自転車で乗るのが好きなんで」「なんで8月にこんなところで自転車に乗っているんだ?」「アルプスを降りてきたら8月になったんだ」

繰り返されるそんな会話に少々閉口しながらも山並みが近づくにしたがい、常緑広葉樹の林が現れだし気温も徐々に下がっていった。国境のボーダーを過ぎてしばらく行くと見慣れない光景が眼に入ってきた。大木に人が取り付き、その皮を四角く剥いでいる様である。自転車を止め、よく見ると其の一边は1メートル程もある。廻りの木を見回すと、やは

り皮を剥いたらしい跡がそこかしこに見つけられる。その剥いでいる物には何処か見覚えがある。「コルクオークか」。

それが解ると同時に、不思議な事に気が付いた。今までは見ることで見られることで五分と五分、しかし私は今一方的に観察をしている。

彼等は好奇心を持ち合わせていないのだろうか? いや彼等は時々ちらちらと私の様子を伺っている。その風貌はアンダルーシアの人々とそれほど変わらないと云うのに。

ポルトガルの初めての夜は、田舎のレストランの2階の、窓の無い、白い壁の、小さな部屋であった。眼をつぶれば、自分が今何処にいるのかも忘れ、ただ今日も無事にベッドにたどり着いた事に充分満足はしながらも随分と遠く迄来たな、そんな感傷に浸っている時に何とも哀調の帯びた唄声が聞こえてきた。

それがファドと呼ばれていることを、後日リスボンの安宿に泊まり合わせた、日本からのツーリストに教えられた。

岸和田 K・M

# informação

## 月田秀子のスケジュール

- 7月、8月と予定していたポルトガル行きは、急遽10月に延期になりました。10月は、現地でCD製作の為にレコーディングをする予定です。
- 12月5日(火)大阪・サンケイホールでのリサイタル決定!
- ファド倶楽部の第2回総会を9月に開く予定です。会場、日時等、決まり次第ご案内します。

- 毎週木曜日 大阪/心齋橋「麓鳴館」  
7月はお休み  
8月3日、10日、17日、24日、31日  
9月7日、14日、21日、28日  
TEL.06-241-9219  
①8:00 ②9:00 (入替なし)
- 8月25日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」  
TEL.075-361-3535 ピアノ:河村真千子 ギター:池側忠  
①8:00 ②9:00 ③10:00 (入替なし)
- 8月27日(日) 鳥取/大山「イベリアサロン」  
TEL.0859-53-3571 G:池側忠 PG:佐野健二  
\*ペンション宿泊施設もあります。
- 8月28日(月) 大阪/心齋橋「アートクラブ」  
TEL.06-253-0827 G:池側忠 PG:佐野健二  
①8:00から3回ステージ(入替なし)
- 9月9日(土) 大阪/平野・全興寺「観月祭」一月と仏とコンサート  
TEL.06-791-2680
- 9月11日(月) 静岡/島田・「ファドの家ライブコンサート」  
TEL.0547-35-2981鈴木
- 9月22日(金) 大阪/矢田解放会館「ファドの夕べ」  
TEL.06-697-3311 同会館啓発課 入場無料
- 9月25日(月) 大阪/心齋橋「アートクラブ」  
TEL.06-253-0827 G:池側忠 PG:佐野健二  
①8:00から3回ステージ(入替なし)
- 9月29日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」  
TEL.075-361-3535 ピアノ:河村真千子 ギター:池側忠  
①8:00 ②9:00 ③10:00 (入替なし)

### お知らせ

会員の井本良子さんが大阪大正区南恩加島に「ALMA」という喫茶店を開店されました。「人の心を大切に生きたい」という良子さんの熱い想いに、月田が名付親を引き受けました。「ALMA」とは、「心、魂」という意味のポルトガル語です。ごひいきの程。

蒸し暑い日が続いております。九州や信州でも大雨が続き、この半年の暗いニュースの流れの中、スポーツの方で楽しいことを見るようになりました。「月田秀子ファド倶楽部」が高津から夕陽丘に移転いたしました。梅雨の合間をぬって移動。会員の中西さん御夫妻、西村さん、叶さん、忠さん御夫妻、お手伝いいただきありがとうございました。小さな軽トラックでの8回の移動でした。おつかれさま。(Y)

### ●原稿募集

会員の皆様からの投稿を募集します。テーマは自由、ファドと直接関係なくてもかまいません。短いものも歓迎します。事務局までお送りください。

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル第7号
- 1995年7月15日発行(季刊誌:年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒543 大阪市天王寺区小宮町1-22.5-西F
- TEL.&FAX 06-779-4597